

令和2年度
栗山町政策評価委員会報告書
(栗山町外部評価制度)

令和2年12月
栗山町政策評価委員会

～ 目 次 ～

1. 評価を終えて	1
2. 評価結果（総合判定及び総合コメント）	2～7
3. 活動方針	8～9
4. 活動経過	10
5. 評価・判定項目と判定基準	11～14
6. 委員名簿	15
7. 【参考】評価集計シート（各委員の個人評価）	16～18

1. 評価を終えて

栗山町政策評価委員会の活動目的は、栗山町第6次総合計画に基づき行政が実施する事業について、町民の視点による客観的な評価を行い、今後の方向性または取組に関する提言、また、政策評価制度の充実に向けた提言を行うことです。

今年度は新旧5名の委員で、栗山町第6次総合計画に掲載されている評価対象188事業から一定基準により3事業を選定し、町民目線からの客観的な評価を行いました。

9月より全7回の委員会を開催しました。評価対象事業に対する知識を深めるため、事業担当職員へのヒアリングを実施し、公正・公明な視点から積極的に質問、意見、提言を行い、活発な議論のもと評価を行うことができました。

本委員会の活動が町民参加による透明性・客観性を高め、町民と行政の情報共有が進み、効果的かつ効率的な行政運営の一助となるよう、本書をもって評価結果をご報告申し上げます。

最後になりますが、本委員会の有識者委員としての的確なご助言等を頂戴しました北星学園大学教授・鈴木克典教授、また、活動をサポートしてくれた事務局職員のご協力に対しまして心から御礼申し上げます。

栗山町政策評価委員会 委員長 八木橋 義則

2. 評価結果（総合判定及び総合コメント）

事業名	事業番号 84		
	ストレス要因の軽減や早期発見・支援などこころの健康づくりを推進します		
事業期間	平成 27 年度 ～令和 4 年度	担当課所	住民保健課 健康推進グループ
政策体系	政策	Ⅲ 医療・保健・福祉 （１）保健	
	施策	③健康を守る地域環境づくり	
	事務事業	こころの健康づくりを推進します。	
		☐ 重点 ☒ 充実 ☐ 新規	
事業目的	こころの健康に関する普及と身近な人の悩みに耳を傾ける支援者を育成することにより、健やかなこころを支える地域環境づくりを図る。		
事業内容	啓発活動（一次予防）自殺対策・産後うつ対策など（二次予防） ハイリスク者等の専門個別指導（三次予防）など		
令和 2 年 度計画	【こころの健康（メンタルヘルス）推進事業】		
	①啓発活動に関する費用 ・ 委託料（システム管理） 143 千円		
	②健康教育・講座の費用 ・ 講師謝礼等 63 千円		
	当初予算額	予算額前年対比	一次内部評価
	206 千円	76 千円（↓）	計画通りに進める

総合判定	計画通りに進める
総合 コメント	<u>①必要性</u> ストレスなど心の健康については、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない社会情勢の影響もあって、早急かつ長期的視野に立って取り組むべき課題である。また、かつその内容から町(行政)としても、取り組まなければならない問題である。 <u>②公平性</u> 全町民を対象にしており、また偏りもなく、負担も生じていないことから、公平性は担保されているといえる。 <u>③協働性</u> 事業の実施方法にてらせば十分に達成していると考えるが、ゲートキーパー養成については、数を増やすだけではなく、質の高い人材育成が必要になると考える。また、「こころの体温計」などにアクセスする方というのは軽症の方など限られているので、アクセスしない方々へ向けた情報発信や取り組みも今後必要となってくる。 <u>④実施方法</u> 昨今のメンタルケアの必要性の高まりを思えば金銭面、人的コスト共に増やせないものか検討していただきたい。また、ハイリスク者へのケア・サポート体制には専門の産業カウンセラーの導入や自死遺族の会の立ち上げなど新たな取り組みも必要と考える。社会情勢から、今後はより充実したメンタルケアが必要となることが見込まれるため、意見の反映・改善は早急に行ってほしい。 <u>⑤事業成果</u> ゲートキーパー養成は評価できる。行政のみならず、官民、全町民で、周りの人を支援できる体制づくりが必要だと考える。ストレス要因の軽減や早期発見・支援という視点では十分に成果を果たしているといえるが、二次予防(自殺対策・産後うつ対策等)・三次予防(ハイリスク者等の専門個別指導)に関してはより充実したケア・サポート体制の確立が必要である。

事業名	事業番号 105		
	高齢者の社会参加と活動の場づくりを推進します。		
事業期間	平成 27 年度 ～令和 4 年度	担当課所	福祉課 高齢者・介護・医療グループ
政策体系	政策	Ⅲ医療・保健・福祉 (5) 地域福祉	
	施策	施策① 社会参加と地域支え合い活動の推進	
	事務事業	高齢者の社会参加と活動の場づくりを推進します。	
		☐ 重点 ☒ 充実 ☐ 新規	
事業目的	地域住民やボランティアのマンパワー育成、高齢者等への支援体制、関係機関とのネットワークを構築することにより、地域で安心して生活ができる支え合い活動の推進を図る。		
事業内容	ケアラズカフェの全町展開など高齢者等居場所づくりの推進、熟年人材センターなど高齢者の社会参加の推進（栗山町社会福祉協議会との連携事業）		
令和 2 年 度計画	高齢者等居場所づくり 1, 300 千円 ・ いきいき交流プラザ ・ 栗山地区 1 カ所 ・ 南部地区 1 カ所 ・ 中部地区 1 カ所		
	当初予算額	予算額前年対比	一次内部評価
	1, 300 千円	4 千円（↓）	計画通りに進める

総合判定	計画通りに進める
総合コメント	①必要性 高齢化が進行する中、町内会、自治会の地域住民の参加・協力により外出の機会も少ない高齢者等に対する支援活動に対しては必要不可欠である。 ②公平性 高齢者を主として対象とした事業において、利用者等に制限を設けておらず、公平性は担保されている。しかし、まちなかカフェは町内4カ所にしかなく、各地域から要望があれば対応すべきである。疾患があつて拠点に足を運べない人もいるので、そういった方々へ向けた取り組みも必要と考える。また、地域の企業への配慮でシルバー人材センターの立ち上げ等ができないのは公平性に欠ける。 ③協働性 積極的な周知が行われ、多くのカフェ利用者なども得られており、対象者や関係者の声も適切に把握していると思われる。しかしながら未参加者など新規参加への工夫やアンケートの分析を数値化するなどの工夫が必要である。 ④実施方法 コスト・実績を踏まえ適正であると考え。利用者・参加者あつての事業であるため、満足度を高めたり、またさらに足を運びたくする工夫をすることが必要となる。また、拠点が限られた場所にしか無く、足が悪かったり病気などで拠点に足を運べない人もいるので、タブレットなどをリースしてふれあいの場を増やすことなども必要になるのではないかと。また、今後は高齢者の方々の活動の場を確保しつつ密や感染を避ける実施方法を検討いただきたい。 ⑤事業成果 老若男女を問わず参加者が多く、理想に適った事業であると言える。今後は、まちなかカフェなどの交流拠点が無い空白地域の解消や、シルバー人材センター設立など、より多くの地域で高齢者が活動できる場の増加を図っていただきたい。また、これまでとしては十分成果を果たしているといえるが、今後はコロナに限らず「安心・安全で参加しやすい」活動の場をつくらせているかということが新たな評価基準となる。

事業名	事業番号 65		
	ふるさと自然体験教育の推進と拠点施設の利活用を図ります		
事業期間	平成 27 年度 ～令和 4 年度	担当課所	教育委員会社会教育課
政策体系	政策	Ⅱ 教育 (3) 自然環境教育	
	施策	②ふるさと自然体験教育の推進	
	事務事業	ふるさと自然体験教育の推進と拠点施設の利活用を図ります	
		☐ 重点 ☒ 充実 ☐ 新規	
事業目的	自然環境を活用した体験学習活動の支援と、拠点となる雨煙別小学校を活用した事業展開を推進することにより、町内児童生徒のふるさとを大切にする心を育むとともに、拠点施設の利用促進を図る。		
事業内容	①ふるさと体験教育事業の実施 ・ 自然体験プログラム指導者の確保 ・ 自然体験プログラム集等の作成 ・ 宿泊費及び施設利用料等の支援 ・ 町内児童生徒の体験学習支援 ・ ボランティア養成講習会の実施 ②雨煙別小学校拠点活用支援事業の実施 ・ 主催イベントの企画及び実施 ・ 施設の管理運営		
令和 2 年 度計画	・ ふるさと体験教育事業 22, 296, 000 円 ・ 雨煙別小学校拠点活用支援事業 290, 000 円		
	当初予算額	予算額前年対比	一次内部評価
	22, 586 千円	617 千円（↑）	計画通りに進める

総合判定	計画通りに進める
総合コメント	<u>①必要性</u> 自然環境を保護、保全するのは行政の取り組みが必要であり、子どもたちに対しての教育上の効果も大きいと考える。 <u>②公平性</u> 拠点施設の利活用において、いずれも町内外の青少年等を対象とし、制限を設けていないため、公平性については担保されている。各種利用料及び費用についても収益性があり適正と考える。 <u>③協働性</u> 関係団体の会議等において共有し質の高い教育活動の実践に努められている。しかしながらアンケートを数値化できるものにし、より分析ができるものにすることを検討してほしい。満足度を数値化し、改善していくことでよりよい事業になると思われる。発信についても、新たな発信媒体、方法が必要だと思う。栗山町には「クリエイターズマーケット」などもあるので商品を置いたり、お互いに宣伝し合うような取り組みも有効ではないか。町外の様々な団体とも積極的にコラボするなどより情報発信に努めてほしい <u>④実施方法</u> 参加している学校等から、要望や改善点などを得る努力をし、次年度以降の事業内容に生かすなどの取り組みが行われ、評価できる。今後は町外への発信もより積極的に行う必要がある。自然体験もできる宿泊施設という素晴らしいアドバンテージがあるので、栗山町の「シンボル」となるような PR をしてほしい。 <u>⑤事業成果</u> 目標値に達しなかった指標はあるものの、増加傾向にあり、コロナ禍でなければ目標は達成できていた。今後は、何らかの形で参加者自身の満足度や要望などの声も把握するような取り組みを図る必要がある。

3. 活動方針

1. 活動目的

栗山町政策評価委員会（以下「委員会」という。）は、栗山町第6次総合計画に基づき、行政が実施する事業について、町民の視点による客観的な評価を行い、今後の方向性または取組に関する提言等を行う。また、本町の政策評価制度の充実に向けた提言を行う。

2. 評価対象事業の選定

評価対象事業は、栗山町第6次総合計画に基づき、町が令和2年度に実施する事業の中から下記の選定目安に準じ、委員会が選定する。なお、評価対象事業数は3事業程度とする。ただし、行政側からの評価希望事業の提示についても可能とする。

【選定目安】

- ①町民の生活に身近であるなど、町民目線による評価が有効と考えられる事業。
- ②第6次総合計画に掲げる重点プロジェクトに該当し、町の個性的な（独自性のある）取り組みが可能な事業。
- ③一定の事業の進捗があり、現時点の評価が有効な事業（新規事業は含まない）。
- ④令和2年度に実施する事業であり、令和2年度以降も継続が見込まれる事業。（単年度事業は含まない）
- ⑤第6次総合計画期間内（平成27年度以降）に評価対象事業として選定されていない事業。
- ⑥町長公約に関する事業（令和2年度以降の後期実施計画に新たに検討・実施するものは含まない）

3. 評価・判定項目及び判定基準

評価項目は①必要性、②公平性、③協働性、④実施方法、⑤事業成果の5項目とし、項目ごとに視点及び判定基準を設定する。また、総合判定項目は①計画通りに進める、②改善を検討、④抜本的見直しの3項目とし、項目ごとに判定基準を設定する。（資料3参照）

4. 評価手順

行政が行う令和元年度の最終内部評価（町長評価）及び令和2年度の一次内部評価（担当課評価）の結果を参考に、担当課からのヒアリングを行い、委員個人による「個人評価」、委員会による「総合評価」を経て評価結果を決定する。

個人評価では、前項3における評価項目の視点と判定基準により、各委員は採点を行い、その理由を含めて「個人評価シート」を作成する。

総合評価では、委員会において個人評価シートの内容を共有し、前項3における総合判定項目の判定基準により「総合判定」を決定するほか、事業改善に向けた各委員からの意見や提言は「総合コメント」として整理したうえで、「評価集計シート」を作成する。なお、総合判定及び総合コメントは、協議内容を踏まえて委員長及び副委員長が案をまとめ、委員会が評価結果として決定する。また、必要に応じて、評価対象事業に関する事前学習、現場調査、関係町民との意見交換等を実施する。

5. 報告書の作成・提出

委員会は、評価結果などをまとめた報告書を作成し、町長に提出する。町長は、その結果を十分に尊重して最終評価を決定し、事務事業の見直し及び改善、予算の編成等、町政の運営に反映するよう努めるとともに、町民に対する情報公開を行う。

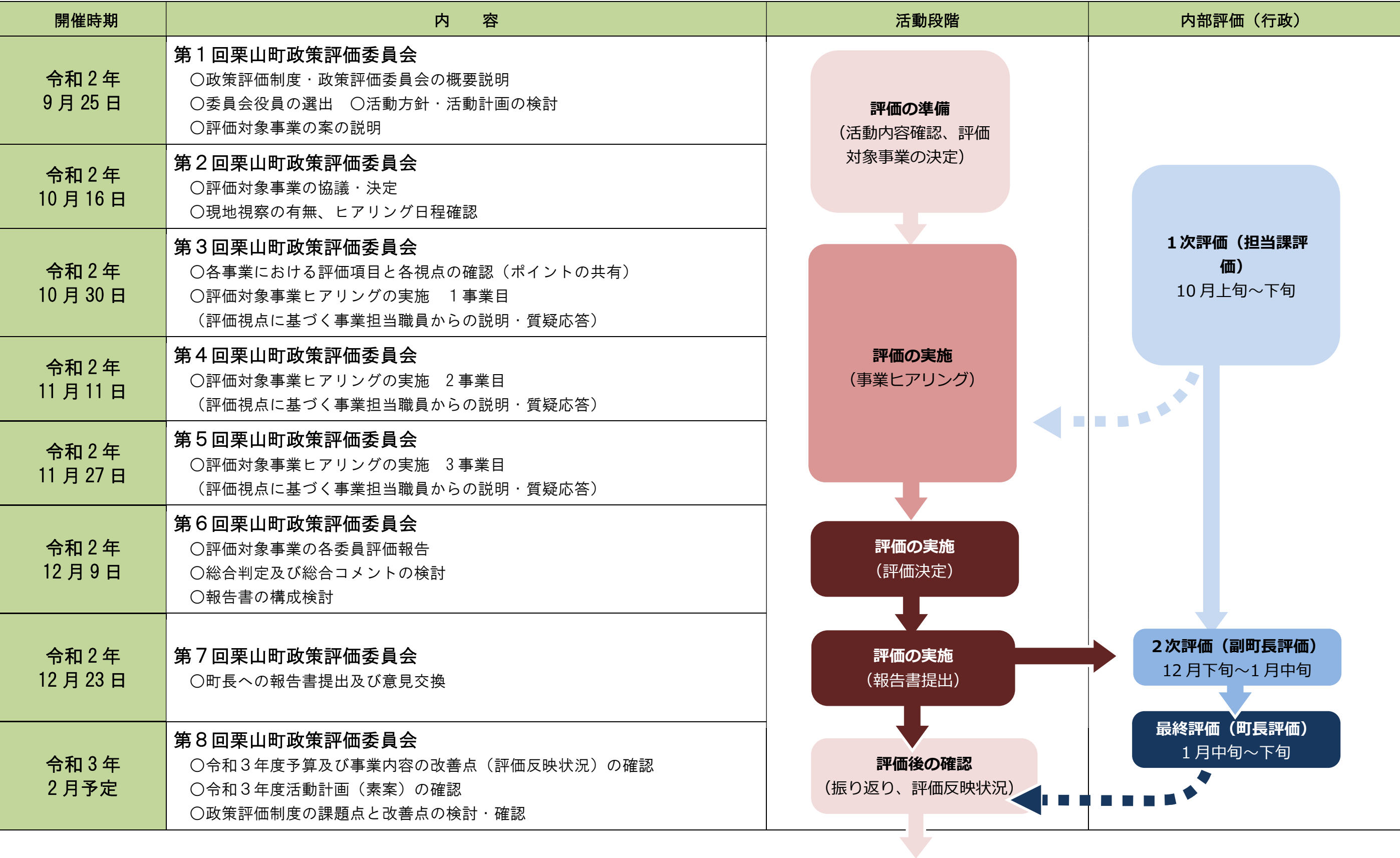
6. 有識者委員（アドバイザー）の助言

委員会は、評価が円滑に進むよう有識者委員を設置し、その助言を求めることができる。

7. その他

この方針に定めるもののほか、必要な事項については、委員長が別に定める。

4. 活動経過



5. 評価項目と判定基準

(1) 個人評価：評価項目と各視点

評価項目	視点
①必 要 性	・ 現時点において実施すべき事業である（長期的な視点も含める） ・ 行政が実施すべき、または関与すべき事業である ・ 社会情勢や町民ニーズに事業の目的が合致している
②公 平 性	・ 対象者の範囲（年齢、性別、分野など）が適切である ・ 対象者への支援やサービスの提供に偏りがない ・ 利用料など対象者（受益者）の負担内容は適正である
③協 働 性	・ 対象者への情報提供（周知）が適切に行われている ・ 対象者や関係者との情報共有や意見聴取（会議、懇談など）が適切に行われている ・ 対象者や関係者の積極的な事業参加につながっている
④実施方法	・ 対象者のニーズや意見などの把握・分析に基づいて実施している ・ 前年度の実績や内部評価結果における改善内容を踏まえて実施している ・ 事業目的を達成するため適切なコスト（事業予算）で実施している
⑤事業成果	・ 数値目標（活動指標、成果指標など）に基づき事業目的に対する努力や成果がみられる ・ 数値目標以外において事業目的に対する努力や成果がみられる ・ 事業目的の達成に向けて適切な改善策を講じている（改善の必要無しを含む）

(2) 個人評価：評価項目の判定基準（採点目安）

- 【5点】○印が3つ該当し、そのほかにも評価すべきことがある
- 【4点】○印が3つ該当
- 【3点】○印が2つ該当
- 【2点】○印が1つ該当
- 【1点】○印の該当なし

※上記の判定基準は目安であることから総合的に判断し採点する。

※一つの評価項目につき5点満点（事業全体では25点満点）

(3) 個人評価・総合評価：総合判定項目及び判定基準

総合判定項目	判定基準
①計画通りに進める	事業目的や方向性が適正であり、効果的な実施方法が採用されており成果が認められる。継続して実施すべきである事業 ※政策評価委員会として今後さらに成果を高めるための提案等がある場合も含む（効果的と思われる新たな手法、事業規模の拡充など） ※成果とは、活動指標や成果指標をはじめ事業目的の達成に向けた明確な数値や実情などを指す
②改善を検討	事業目的や方向性に問題はないが、成果が認められず実施方法について改善の検討を要する事業 ※事業課題に対して、対象者の見直し、他機関との連携強化、制度の普及・周知拡大など、実施手法や内容の改善 ※補助・交付単価、再積算による見直しなど事業費の改善
③抜本的見直し	事業目的や方向性に問題があり、抜本的な改善や他の類似事業への統合も含め、事業自体の見直しについて検討を要する事業

令和２年度 栗山町政策評価委員会 個人評価シート

委員氏名	計画事業名

評価項目	視点 (その他に評価すべきことは記述)	該当 (○印)	評価理由	点数 (1～5)
① 必要性	現時点において実施すべき事業である（長期的な視点も含める）			
	行政が実施すべき、または関与すべき事業である			
	社会情勢や町民ニーズに事業の目的が合致している			
	()			
② 公平性	対象者の範囲（年齢、性別、分野など）が適切である			
	対象者への支援やサービスの提供に偏りがない			
	利用料など対象者（受益者）の負担内容は適正である			
	()			
③ 協働性	対象者への情報提供（周知）が適切に行われている			
	対象者や関係者との情報共有や意見聴取（会議、懇談など）が適切に行われている			
	対象者や関係者の積極的な事業参加につながっている			
	()			

評価項目	視点 (その他に評価すべきことは記述)	該当 (○印)	評価理由	点数 (1～5)
④実施方法	対象者のニーズや意見などの把握・分析に基づいて実施している			
	前年度の実績や内部評価結果における改善内容を踏まえて実施している			
	事業目的を達成するため適切なコスト（事業予算）で実施している			
	()			
⑤事業成果	数値目標（活動指標、成果指標など）に基づき事業目的に対する成果がみられる			
	数値目標以外において事業目的に対する成果がみられる			
	事業目的の達成に向けて適切な改善策を講じている（改善の必要無しを含む）			
	()			

総合判定項目 (いずれかに○)	計画通りに進める		百計点数 (①～⑤百計点)	/25 点
	改善を検討			
	抜本的見直し			
総合判定理由				
改善策等提案				

6. 委員名簿

- ・ 栗山町政策評価委員会設置要綱の規定に基づき、委員会は5人以内の一般委員及び1人の有識者委員（アドバイザー）をもって組織。
- ・ 一般委員を公募により決定した
- ・ 委員の任期は令和3年3月31日まで。

区分	氏 名	備 考
委員長 (一般)	やぎはし よしのり 八木橋 義則	新規 ・ 栗山町内連合会副会長
副委員長 (一般)	おばら じゅん 小原 純	前年度に引き続き委嘱 ・ 正淳鍼灸院院長 ・ くりやま公式サポーター1期メンバー
委員 (有識者)	すずき かつのり 鈴木 克典	前年度より継続（町推薦） ・ 平成25年度アドバイザー委嘱 ・ 北星学園大学経済学部経営情報学科教授
委員 (一般)	きくち あいみ 菊地 愛実	前年度に引き続き委嘱 ・ 平成29、30年度栗山町政策評価委員 ・ 栗山町図書館司書
委員 (一般)	にしおか まさのり 西岡 政則	前年度に引き続き委嘱 ・ 平成27、28年度栗山町政策評価委員 ・ （一社）栗山青年会議所所属

7.【参考】評価集計シート（各委員の個人評価）

事務事業名

事業番号 84

ストレス要因の軽減や早期発見・支援などこころの健康づくりを推進します

評価委員	①必要性		②公平性		③協働性		④実施方法		⑤事業成果		総合判定		
	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	合計	判定項目	上段＝判定理由、下段＝改善策等提案
委員 1	5	国の自殺者数は年間 3 万人以上であった。近年は多少減っていたが新型コロナウイルス感染症の関係から再び増加し、1 カ月 2 千人をはるかに超えてきた。行政は避けては通れない事業です。	5	老若男女を問わず対応。どのような問題点になっているのか専門的知見が必要になる。町民の誰もが関心のある問題として周知徹底を願いたい。	5	こころの健康に関する悩みは家族にとっても深刻なものであるため、地域や職場等から適切に情報を得ることが重要になる	5	こころの健康づくりアンケートの実施。各町内会組織に「悩み相談対策部」などの活動場を設置してはどうか。行政と各町内会の連携が重要。	5	第 1 期栗山町健康増進計画「こころの健康づくりの推進」を定め、これまで具体的な施策を展開されてこられたことを高く評価したいと思います。	25	計画通りに進める	特になし
委員 2	5	いずれの視点にも該当する。また、世情の変化で必要性は高まっている。コロナ禍の影響を受け需要の増加が考えられることからより充実してほしいところ。	4	全町民を対象にしており、公平性は担保されているといえる。	4	情報提供は、積極的かつ十分に組み込まれているものと考え。協働の面では、ゲートキーパー養成に関して、(人)数、質、要請講座受講後の活動の広がりなど伸びしろを感じた。性質上、安易に増員・活動出来るものとも思わないが、いずれの点でもより充実するとお望ましいと考える。	3	運用中のシステムについて、同様のものを導入している地域の中でも利用率が高い点は、需要＝リスクの高さをうかがわせるデータではあるものの、町民自身のこころの健康に関心を喚起しているとして一定の成果と捉えることが出来、適切と言える。また、町民講座では、心身両方の健康についてのアプローチである点も評価できる。	4	事業目的、計画に対し、十分な成果をあげていると言える。現状計画にてらせば、一次予防部分の効果の底上げや、二次予防以降で対応可能な専門的人材の導入など、事業充実のための選択肢は多いので、実現可能な範囲から検討をしてもらいたい。	20	計画通りに進める	質的な重さのある事業でもある中、一次予防から緊急度のあがる三次予防までバランスよく計画されており、実施状況に関しても真摯な取り組みであることがうかがえた。必要性については、担当課職員の皆様には、事業の実施を含め前戦部分で町民のこころの拠り所という重責を担っていただいているため、町施策としてもこれを支えつつ、継続して町民の心身の健康に繋げてもらいたい。 既存計画では、一次予防に注力し以降のリスク回避を目指す姿勢が感じ取れたが、町として二次以降の重度化事案への支援にも更に厚みを持たせられると望ましく感じた。 自死の企図や実施にまで至るケースが多いとは言えない現状に鑑みれば、既存の計画でも支援としては適切といえるが、自死という痛ましい選択肢が少しでも町民から減らせるようなケアをお願いしたい。 また、「こころの体温計」については、町民自身のメンタルヘルス上のセルフチェックツールとしては手軽で有用なシステムなので、中高生などの生徒に対しても周知していけるとよいのでは。
委員 3	4	今の時代やコロナ禍という社会情勢において必要と考える。	2	全町民へ無料で実施できるサービスがあるのはいいが、本当に苦しんでいる人は「いのちの体温計」といったサービスは試みないと思う。早期発見や予防のためにもっと工夫が必要。	2	ゲートキーパー養成は時間がかかり、また決して専門的なカウンセラーではない。数だけを増やしても意味がない。質の高いサポートが必要	2	いのちの電話はほとんどつながらないし、充分な方法とは言えない。専門のカウンセラーを委託・雇用するなどより身近で専門的なサービスが必要	3	近年自殺者が出ていないことは評価できるが、「いのちの体温計」などの利用者が多いのは逆に言えばそれだけ現状に不安・不満があるともとれる。	13	改善を検討	ここ数年の社会情勢やコロナ禍の中、現在の実施内容は不十分と思う。 今後はより町民目線に立った取り組みが不可欠。 専門のカウンセラーを設置し、自死遺族の会などの設立が必要。今の時代を考えると予算増や専門的な人材の確保を検討すべき
委員 4	5	新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、個人が抱える悩み、自殺へ意識が向くことを抑える必要がある、行政が主導で行うとともに、町民に寄り添った団体や企業との協働や啓蒙が必要だと考えます。	4	悩みを抱く方々に寄り添ってください。町民の多くの方々に周知される事業としてください。	3	行政・企業、団体が連携を取り行っていたきたい。ゲートキーパーについては、数を増やすだけでなく、質の高い人材育成が必要になると考えます。	4	自殺企図者の情報をより早く収集できる仕組み。悩みを打ち明けられない方々に対しての支援や民生委員さんからの情報を活用し、進めて頂きたい。	3	理解度が必要な指数になるかと思われ事業であり、全町民対象となることから、参加人数、年代をより巻き込んだ事業構築、町民へ本事業の必要性を投げかけるなど、行政のみならず、官民、全町民で、周りの人を支援できる体制づくりが必要だと考えます。	19	改善を検討	年代、性別、収入など様々な社会情勢の背景もあり、悩みも多様化しているなかで、新型コロナウイルス感染症が出現により、1 人の時間が増え、悩みや不安が増加しているなかで、支援の形としては必要不可欠であると考えます。 悩みを抱える方々へ、個人が必要とされる企画などを民生委員はじめ、町内の方々と作り上げて頂きたい。
委員 5	4	ストレスなど、心の健康については、昨今の様々な社会情勢の影響もあって、早急かつ長期的視野に立って取り組むべき課題である。また、かつその内容から町(行政)としても、取り組まなければいけない問題である。	4	啓発活動(システム管理委託)、健康教育・講座ともに全町民を対象としており、また偏りもなく、負担も生じていないことから、公平性は担保している。しかし、現時点では適正と考えられるが、早期発見という意味において、今後はアウトリーチなどの工夫が必要となる。	4	情報提供は積極的になされており問題ないものの、今後は潜在的対象者にきちんと届くような工夫が必要となる。またゲートキーパー養成については、重要な施策であり、引き続き養成に努め、より早期発見につながるような工夫に努めていただきたい。	3	「こころの体温計」については、気軽にアクセスできるシステムであり、引き続き周知に努めていただきたい。当町では、利用状況も比較的高く評価に値するが、よりストレスを抱えている層に向け、より利用をしていただけるよう工夫が必要と考える。特に引きこもりの方や、情報弱者である高齢者対策が必要となる。	4	ゲートキーパー養成は評価できる。講座や研修会の実施回数、理解度も重要な指標であるが、それらに加えて、参加人数や満足度など、参加者側の視点に立った指標も必要である。場合によっては、ターゲット(例:年代)別の把握も重要である。また、講座の場合、何らかの前後を比較した指標もあるとよい。	19	計画通りに進める	積極的な周知や講座の開催などが実施されている。また、ゲートキーパー養成については対象も広げつつあり、評価はできる。しかし今後は利用者(町民)目線に立った指標や声を拾っていくなどの努力は必要と考える。 利用者側の視点に立った指標の設定が必要である。そして講座の場合、参加前後の変化などを把握することも必要となってくると思われる。 また、情報弱者の高齢者で引きこもりがちな町民へのアプローチは考えるべきである。

価委員	①必要性		②公平性		③協働性		④実施方法		⑤事業成果		総合判定		
	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	合計	判定項目	上段＝判定理由、下段＝改善策等提案
委員 1	5	高齢化が進行する中、町内会、自治会の地域住民の参加・協力により外出の機会も少ない高齢者等に対する支援活動に対しては必要不可欠である。	3	まちなかカフェは町内 4 カ所にしかありません。各地域から要望があれば対応すべきです。	5	適切であると思います。	5	新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策には充分気を付けてほしい。今後も拡大の恐れがあるため	5	概ね適正と思います。老若男女を問わず参加している現況は理想に適った事業と考えます。なお、地域ごとの内容も検討されたい。	23	計画通りに進める	高齢者の中には運転免許証の返納者が増えております。まちなかカフェに行きたくてもなかなか参加できない方もおられると思いますので、できる限り近く高齢者の社会参加と活動の場づくりを願いたい。住み慣れた地域で楽しい仲間づくりの支援体制をつくることが急務。
委員 2	4	高齢世代になっても社会的な活動が出来る事や地域とのつながりがあることは本人の生きがいの意味でも、心身の健康、生活の充実、防災等様々な面で意義があり、高齢化の進む今行政が関与して高齢者の活動の環境を支援する必要性があるものといえる。	4	いずれの視点においても、十分に公平性が担保されていると言える。まちなかカフェについては、来場しづらい地域住民も居ると思われるが、計画の改善についてビジョンがあることを踏まえれば適切と言える。また、高齢者ののみに限定する企画でない点も評価できる。	4	周知・情報共有・意見聴取とも適切に実施されている。参加者への意見聴取については別事業で収集した意見等を活用しているとのことなので、実際の参加者本人から直接収集する機会を設けるのもよいかと思われる。	4	イベント内容などについても、参加者の関心に沿ったものを、バリエーションを持たせて実施する工夫が見え評価できる。実施状況についても、新型コロナウイルスの影響により、今後の実施方法については再考の必要が考えられるがコロナ流行以前に関しては適切に実施されていると評価できる。	4	いずれの視点からも適切といえる。計画の目標値に達しない点もあるが、想定外の感染症流等の影響を鑑みれば妥当と言える。また、熟年人材センターについては活動が停滞しているものの、改善計画が報告されているため、今後の経過に期待したい。	20	計画通りに進める	感染症流行という想定外の危機に見舞われたものの、十分な目的意識と妥当性に基づいて計画が推進されたものと判断できた。今後の展開については、利用者の多くが高齢者であるため、十分な感染対策の他既存の実施方法の見直しとあわせて展開する必要があるが、全体を通して計画通りの実施が望ましいと言える。 現状でも利用者の利用実態の把握、意見聴取は適切に行われているが、実際の利用者本人からの意見の吸い上げができればより望ましいと考える。また、まちなかカフェも魅力的な企画だが、来場の際の交通手段は、高齢者にとってはネックになりがちなポイントかと思うので、利用層の希望等について聞き取りができると新規の利用に繋がる可能性を感じた。また、企画の提供・実行スタッフとしてボランティアとの協働を行っている点が大変素晴らしい。ボランティアの人材確保が今後困難になるようであれば、有償ボランティアの導入なども検討できると選択肢が増えるのではないか。
委員 3	4	視点到該当しているが、シルバー人材センターをつくるべき。	2	地域への企業の配慮は公平性に欠ける	2	アンケートの分析を数値化することが必要。場合によってはアンケート内容を変えることも考える。	3	コストが適切ではあるがシルバー人材において見直しが必要	3	十分な成果までは至っていない	14	改善を検討	地域の企業に配慮すべきではなく、シルバー人材センターが栗山にないのは問題である。 シルバー人材センターをつくり健康かつ有料である活動を増やすことが必要である。
委員 4	5	生きがいや交流の場を提供する必要性があり、適正であると思います。	5	公平性はあり、適正であると思います。	5	適正であると思います。	5	適正であると思います。高齢者のみならず、子ども達にも参加を頂いていることは大きなものと考えます。利用者の方々から町内の子ども達への、講師やイベントなど交流が生まれる場として頂きたい。	5	高齢者の中でも、活発な方々の参加を頂いている。協議も適切であると思います。錦地区にも必要性を感じます。	25	計画通りに進める	高齢者の集う場所の確保が出来ており、趣味や交流など楽しみが生まれているものと考えます。 施設の利用とは離れてしまうかもしれませんが、地域に所在する公民館や会館などを利用した、イベントなどを企画し、交流が生まれる場として頂きたい。各町内で行っているかと思いますが、人数により隣の町内会や老人会などと協働し、企画することで、新たな交流の機会が創出されと考えますので、町内の子ども達と高齢者の交わる機会、高齢者の活躍の場をつくる仕組みを構築して頂きたいです。
委員 5	4	高齢者の社会参加と活動の場づくり、居場所づくりについては、超高齢化社会にあって、非常に重要な課題であり、また会議保険計画にも位置付けられており、町(行政)としても、社会福祉協議会など福祉系団体とともに協働で取り組む事業であると考えられる。	4	高齢者を主として対象とした事業において、利用者等に制限を設けておらず、公平性は担保されている。しかし、課題でも挙げられてが、会場までのアクセスの関係で足を運び難い層(空白地域)や引きこもりがちの高齢者へのアウトリーチに工夫を行っていく必要がある。	4	積極的な周知が行われ、カフェ利用者などでは多くの参加者も実績として得られており、対象者や関係者の声も適切に把握していると思われるが、(容易ではないが)未参加者など新規参加者の参加への工夫が必要である。また、協力スタッフなどボランティア・担い手発掘も必要となってくる。	4	前年度までの実績を踏まえ、適切に事業は実施されている。しかし、別事業においてアンケート調査は行われているものの、利用者・参加者あつての事業であるため、利用者に対しても声を拾う・把握するなどを行い、満足度を高めたり、またさらに足を運びたくなる工夫をすることが必要となる。	4	利用者は地区ごとに異なるものの、地区ごとに特徴ある催事も行い、結果として比較的多くの参加者が得られており、評価ができる。しかし、今後は空白地域の解消(工夫)、未参加者や引きこもりがちな対象者の外出への促し、魅力ある催事など、利用者の声も把握しつつ、工夫・改善を行っていく必要がある。	20	計画通りに進める	事業において、積極的な周知、課題解決のための努力はされており、引き続きの改善や工夫は必要なものの、計画通りの範疇と考えられる。しかし、今後は未参加者や引きこもりがちな高齢者へのアウトリーチ、催事(内容)の工夫などをこれまで以上に意識して進めていくことが望まれる。 これまで参加者として、小学生などの子どもも実績としてはあるようであるが、高齢者、子どもの双方が喜ぶような催事の仕掛けなど、潜在需要の顕在化を実現するような工夫や仕掛けをしていく努力をしていただきたい。また、主体となる多様な町民の声や希望を把握していく必要がある。

評価委員	①必要性		②公平性		③協働性		④実施方法		⑤事業成果		総合判定		
	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	合計	判定項目	上段＝判定理由、下段＝改善策等提案
委員 1	5	自然環境を活用した体験学習は大変素晴らしく他に例のない事業と考えます。体験学習を通じて町内児童生徒の心育む事業と考えます。	5	「ふるさと自然体験教育」「拠点施設の利活用」対象の範囲は適正と考えます。各種利用料及び費用について収益性があり適正と考えます。	5	関係団体の会議等において共有し質の高い教育活動の実践に努められている。自然だけでなく歴史や文化、食など様々な要素がるとの事。そこらも関係団体と連携してほしい。	5	学校等のニーズに応じた対策を講じているので適正。必要に応じて事前学習や事後学習なども実施していることに感動した	5	各学校の担任と体験プログラムを協議し実施内容を検討しているとなっているが、生徒も含めるべき。保育園から高校生までがふるさと体験教育を実施できる環境が整っているとのこと。学年に応じたふるさと自然体験を実施している。感動した。	25	計画通りに進める	ふるさと教育の拠点、ハサンベツ里山・オオムラサキ館・雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスは我々町民にとって誇りある施設としてしっかりと自覚を新たにしなければならぬと感じました。 雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスの冬期間の施設利用促進において検討する価値があると感じます。 新型コロナウイルス感染拡大の渦中にありますが、検討されますようお願い申し上げます。
委員 2	4	ふるさと栗山に対する愛着や誇りを育むことは、後世の担い手である子ども達の成長にとっても非常に重要な意味を持つ。自然体験を通じてのふるさと観の獲得を支援することは、行政として行うべきものといえる。また、これらの活動は継続的に行うことでこそ効果が得られるので、事業の必要性は高い。	4	児童生徒を中核として運用してはいるものの、限定的ではなくそれぞれの年代など多様な利用者に応えられており、サービスや対象者について偏りはない。また対象者の負担についても、十分に配慮があり適切と言える。	4	情報提供・共有については、インターネットを使った媒体や、冊子、希望者との打合せなどによって適切に行われている。意見や感想の収集についても十分意識的に行われており、体験プログラムの更新なども定期的に行われていることから、協働性に関し適切に実施されていると言える。	4	対象者の意見やニーズの把握は、参加希望者との協議等種々の方法で行われている。また、改善点についても十分自己分析がなされており、更新に活かされているものであると言える。関係団体との連携・共同についても十分に行われており適切な実施であると言える。	4	数値目標に関しては、目標に満たない点もあるが、参加者数などから着実な増加が見られることから、十分に成果に繋がっていると考える。何より、過去の参加者が成長後にも事業に関わったり、リピーターになっているという点は、当事業の目的に対し何よりの成果といえる。	20	計画通りに進める	計画自体もよく練っており、適切に実施されている。改善プランなどについても十分に検討されており、計画通りの実施継続で成果につながると考える 事業の利用者(宿泊・自然体験)には、海外利用者も増加傾向とのことだったので、海外利用者と町民の交流機会を設けるような企画があれば、異文化交流の意味でも得るものが多いのではと思う。また、事業参加者の子ども達が成長後、改めて参加しているという点は大変興味深かった。可能であればリピーターの追跡調査などが出来ると効果として実感しやすいデータになるように思う。未だ新型コロナウイルスの流行の影響下なので、状況に合わせて必要な対策を取りつつ、更なる発展に期待したい。
委員 3	3	栗山町のふるさとというコンセプトはいい	2	「ふるさと」というコンセプトから「栗山町を発信」に転換すべき。町内だけではなく町外へも積極的なPRが必要	4	アンケートを数値化できるものにし、より分析ができるものにすることを検討してほしい。	2	ニーズの分母に不明点がある。栗山町外に発信を積極的にする必要がある。	4	コロナ禍でなければ目標は達成できていた。	15	改善を検討	コロナ禍でなければいい事業であるが、栗山町民「ふるさと」というコンセプトではなくすべての人が対象であるとなお良い コロナ禍を考えると予算を増やし対策しつつ行う事業である。
委員 4	5	自然環境を保護、保全するのは行政の取り組みが必要であり、そのなかで、町民の意識も必要になり適正であると思います。	5	対象とされる範囲が、町外も含まれているため収益性があり良いと思います。	4	発信についても、新たな発信媒体、方法が必要だと思います。	4	適正であると思います。参加する子ども達の、保護者なども巻き込める事業を促進して頂きたいです。	4	事業後のアンケートなど、集約する仕組みの改善が必要だと思います。	22	計画通りに進める	町内の自然を活用した教育は必要であり、学習や宿泊する施設もある事から有効活用して進めて頂きたいです。 冬季間の利用促進に関して、学習会だけではなく、楽しさを感じて頂く方に特化したものでも良いのかと考えます。自然の中で遊ぶことでも、学ぶことの出来る五感があり、冬ならではの遊びやハサンベツの活用が必要だと考えます。
委員 5	5	当町におけるふるさと自然教育は、町の財産である「雨煙別小学校・コカ・コーラ環境ハウス」、ハサンベツを中心に活用した事業であり、行政が関与して、実施すべき事業であると考えられる。また、子どもたちに対しての教育上の効果も大きいと考える。	4	ふるさと自然教育、拠点施設の利活用において、いずれも町内外の青少年等を対象とし、制限を設けていないため、公平性については担保されている。 また、町内の学校等は無料とし、町外者については有料としているが、町の負担等を考えると妥当であると考える。	4	積極的な情報提供(周知)も行われ、また参加している学校などから、事業に対する要望や改善点などを聴くなど積極的な情報共有もできており、評価できる。 また、他の関係団体の協力も得られ、連携体制もできており、今後の相乗効果が望まれる。	4	参加している学校等から、要望や改善点などを得る努力をし、次年度以降の事業内容に生かすなどの取り組みが行われ、評価できる。また、関係団体との連携による実施も評価できる。 今後は参加者自身の要望の情報収集や主体となる子どもたちからアイデアをもらうなどの取り組みも必要と考える。	4	数値目標については、目標値に達しなかった指標はあるものの、増加傾向にあり、事業目的に対する成果は見られる。また、子どもの頃に活動に参加した町民が、成長して再度参加するなどの成果も見られる。今後は、何らかの形で参加者自身の満足度や要望などの声も把握するような取り組みが望まれる。	21	計画通りに進める	ふるさと自然教育においては、参加団体である小学校の要望を収集する等、その内容や展開方法について意見収集・検討を行い、それを次年度の事業に反映をし、より効果的な内容を取り入れている点は大きく評価できる。しかし、参加者自身の声などを収集することによって、さらなる広がりにも繋がる可能性があると思う。 今後さらに広げていくためには参加者個々人(子どもたちなど)の満足度や要望、未参加者の声なども取り入れ、より多くの声を収集していく必要がある。また参加団体と協働で内容を考えるのもよいかと思う。また、現状では問題ないものの、今後の担い手(ボランティア含む)の確保、教育を考えていくことが重要かと思う。